

私の「葉隠」

UAM日本学科2年生 カリナ・カジミエルチャク

私達は侍ではありません。それは当たり前ですね。しかし、考えれば考えるほど、今の学生は侍のようなつわものじゃないでしょうか。たくさん勉強があるし、時々その勉強で苦勞するし、ホームシックにかかって、一人暮らしに慣れるのは結構大変だと思います。ですから、ある日、日本の歴史の授業の時、「葉隠」という日本の武士が堅く守っていた思想について聞いた時、思わず学生のことを考えてしまいました。『葉隠』に書かれた思想は武士だけに向けられています。いろいろな活動や行動の方法が、普通の学生の生活にも役に立つと私は信じています。どうぞ、私の意見を聞いて下さい。

まず、山本常朝によって書かれたこの本、『葉隠』で読んだのですが、上杉 謙信は、「勝利を得る方法は分からないが、ただ知っているのは、できるかぎり、好機を逃さないことだけだ」と言ったそうです。私も上杉謙信のように、いつもよく考えて、効果的に機会を十分に利用したいと思います。

それから、勉強が苦しい時や、月の半ばごろになってお金がなくなってしまった時、大切なのは、その悩みに負けないことです。困った時にこそ、人間の才能は開花するし、ベストをつくるために頑張ろうとします。ですから、このアドバイスを忘れない方がいいと思います。

これは自分の体験ですが、人が間違えて、失言や失礼なことをしてしまった後で、他の人が「だめだ!」と言って、失敗を許してくれない時があります。『葉隠』によると、失敗した人に、もう一度チャンスをあげたら、その人は次はよくなることができるそうです。作者は、それは武士の振舞いだと信じていると書いています。学生は真面目に勉強していても、時々テストに落ちたり、会話の練習の時よく間違えたりします。そんな時、先生がその学生にもう一度チャンスを与えて、期待してくださいれば、その生徒はきっと良くなるはずです。このように、『葉隠』によると、侍の重要な義務は、他の人に対する深い慈悲と手助けだそうです。ですから、間違いについて責めたりするのは良くありません。武士は、困った人に自信を吹き込んであげたり、自分ができることなら、手伝ってあげた方がいいと思います。作者によると、誰かを手伝ってあげた時、「その人が合格したのは私のおかげだ」と自慢するのは失礼なことだそうです。それよりも、「合格したのは私達がお互いに助け合ったおかげだ」と言ったほうが良くないでしょうか。私の意見では、戦士らしく振舞うのは結構難しいと思いますが、うまくすれば、人生がもう少し過ごしやすくなるのではないのでしょうか。この「葉隠」という武士の思想についての本は、約200年も前に書かれたのに、今でも、その考えは普遍的な意味を持っていると思います。私は、そのアドバイスに従って、「今頑張れば、この先は楽」ということを信じています。